

パステル

印象派が好んだ画材

ドガの「踊り子」など、パステルは印象派の画家が好んで使った画材です。パステルは粉末の顔料を最小限の水性糊材で固め、持ちやすい棒状にしたもの。顔料そのものに近い色、やわらかい風合い、即描性。印象派の画家がパステルを使ったのは、対象の動きや色彩、移ろいゆく光の陰影をすばやく描くに適した画材だからです。しかし、パステルは油絵具や水彩絵具のようにパレットの上で混ぜできません。そのため、色数が多いのも特長です。ホルベインのパステル(アーチストソフトパステル)は全色で、250色あります。

パステル画の技法

パステルは手先や道具を使うことによって、多彩な表現を楽しむことができます。いくつか技法を紹介してみましょう。

■**ぼかし** 色を塗った後、指で押さえたり、擦ります。ティッシュ、刷毛、筆、擦筆など道具を使って擦ると、指とは違ったニュアンスのぼかしが表現できます。

■**ウォッシュ** 塗った後、水を含ませた筆でなぞって溶かします。水彩絵具で描いたような風合いになります。

■**混色** パレットで混色できないと言いましたが、パステルをカッターナイフやサンドペーパーで削って粉状にしたもの同士なら混ぜられます。画面上で異なる色を塗り重ねた部分を摺り合わせても混ぜることができます。

■**塗り重ね** 下の色と混ぜずに塗り重ねるためには、最初に色を塗った後、パステル フィキサチフ(コート剤)を吹きかけます。パステル フィキサチフが乾いてから色を塗り重ねる

と、きれいな塗り重ねができます。ドガはフィキサチフを多用することで、パステル画でありながら厚塗りの画面をつくっています。

紙と保存方法

紙は表面に凹凸があるものを使います。パステル用の紙が市販されているので、それを使えばよいでしょう。パステルは定着力がないので、仕上がった作品をそのままにしていると、顔料が画面から落ちてゆきます。完成後、作品にパステルフィキサチフをかけます。パステルフィキサチフはパステル専用に使われたもので、普通に用いられる、木炭や鉛筆の固定に用いるフィキサチフと仕様が異なります。普通のフィキサチフのほとんどはアルコールをベースにしたワニスなのですが、パステルにはメーカーによっては染料系の色素を用いた品があり、そういったパステルで描かれた作品に普通のフィキサチフをかける時、染料質がアルコールに溶け出して、色が強くにじみ、著しく色味が変わります。

ホルベインのパステルフィキサチフは石油系なので、その心配はありません。しかし、かけすぎると色に深みが出て、パステル画特有の粉っぽく、明るい画肌のイメージが損なわれる場合もあります。それが嫌な方は、パステルフィキサチフの使用を最小限にとどめ、パラフィン紙やトレーシングペーパーをあてて表面を保護するといでしょう。



スプレー パステル
フィキサチフ



アーチスト ソフト パステル
(100色セット)

※ 褪色が少ない(耐光性の高い顔料を使用)、安全(鉛、カドミウム、水銀など有害物質を含まない)など、アーチストソフトパステルは優れた特色を持っています。

ホルベイン絵具に関する
ご質問・ご相談は…

ホルベイン絵具 技術サービスセンター TEL.0729 (85) 1223
〒579-8063 東大阪市横小路町4-10-52
電話受付時間/9:00~16:00 月~金曜日(祝日を除く)



ホルベイン絵具